

2020年度 帯広コア専門学校 自己評価報告書

1. 実施方法

学校長指示の下、事務長により評価表を作成し、それぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価 結果（状況・課題等）

基準1 教育理念・目的・育成人材像等		評価	前回
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	3.1	3.7
【1-2】	学校の特色は何か	3.0	3.2
【1-3】	学校の将来構想を抱いているか	3.3	2.9
<p>今回の学校自己評価での指摘にもあるように、近年の社会変化に沿って見直しの必要性を強く感じている。十勝唯一の総合的高等教育機関として創立34年を迎える中、産業構造や社会システムの変化や地域社会が求める人材、テクノロジーの発達など学校を取り巻く環境が大きく変化しており、理念・目的・育成人材像なども見直しを進めている。</p> <p>外部環境の変化への対応、更には、将来の目指すべき社会へ向けて、本校のビジョン、そして価値に関して改めて定義する作業を本年度から進めている。その作業においては、地域社会(自治体、企業など)、在学生などのステークホルダーともコミュニケーションを深め、多くの理解を得られるよう努めている。次年度には、新たな本校のビジョン、ミッションなどを公開する予定である。</p>			

基準2 学校運営		評価	前回
【2-4】	運営方針は定められているか	3.1	3.5
【2-5】	事業計画は定められているか	3.1	3.5
【2-6】	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3.1	2.8
【2-7】	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2.8	3.0
【2-8】	意思決定システムは確立されているか	3.1	2.7
【2-9】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3	3.0
<p>運営方針や事業計画に関しても上記1の見直しの中でより鮮明化を進めている。</p> <p>情報システム化に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応として4月からの全学科オンライン授業の開始、5月からのGoogleサービス導入、更に7月の学内ネットワーク強化と学生へのWiFi開放など授業のデジタル化へも積極的に取り組んで来た。</p> <p>その結果として授業の在り方、教師の働き方などにも確実な変化が現れており、学校DXとして計画的に推進している。また、学校の価値向上のためにも教職員の待遇改善にも積極的に取り組んで行く。</p>			

基準3 教育活動		評価	前回
【3-10】	各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	2.9	3.3
【3-11】	修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	2.9	3.3
【3-12】	カリキュラムは体系的に編成されているか	3.3	3.4
【3-13】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3.4	3.4

【3-14】	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3.0	3.6
【3-15】	授業評価の実施・評価体制はあるか	2.7	3.3
【3-16】	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.9	3.4
【3-17】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.3	3.2
【3-18】	資格取得の指導体制はあるか	3.3	3.6
<p>地域産業の動向や社会環境の変化に合わせカリキュラム構成を再検討し、教育課程編成委員会の意見を参考にしている。学科ごとの目的、使命を再認識し、それぞれの到達レベルに向けた指導方法と体制をさらに強化したい。また、授業評価に関しては、より密度を増してカリキュラムや教育方法などの見直しに活用したい。</p> <p>留学生を含め学力レベルに大きな差が見られ、個別指導で教員の負担増が課題である。今後、指導方法などについて検討を続け改善したい。</p>			

基準4 教育成果		評価	前回
【4-19】	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2.9	3.4
【4-20】	資格取得率の向上が図られているか	3.3	3.5
【4-21】	退学率の低減が図られているか	3.0	2.9
【4-22】	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.5	3.2
<p>学生との相談や個別面談などを含めコミュニケーションには十分な配慮がある。少人数の学校ならではのと思うが、継続して行きたい。</p> <p>卒業生に関しては、大変残念ながら疎な関係が継続している。本年度、卒業生の最新情報の収集を始めたが、集まりも悪く更なる工夫が必要である。できるところから卒業生との連携機会を設けて、同窓会組織の再構築を行いたい。</p>			

基準5 学生支援		評価	前回
【5-23】	就職に関する体制は整備されているか	3.1	3.5
【5-24】	学生相談に関する体制は整備されているか	3.2	2.8
【5-25】	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.0	3.4
【5-26】	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.9	3.1
【5-27】	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.9	2.8
【5-28】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	2.5	2.8
【5-29】	保護者と適切に連携しているか	2.9	3.0
【5-30】	卒業生への支援体制はあるか	2.5	2.4
<p>学生支援に関しては、一定量の制度的な整備はある。学生とのコミュニケーションの中や自治体や地元企業とも連携して今後も充実を計って行きたい。</p> <p>卒業生との連携と同じく保護者との連携も課題である。一部、問題がある学生の保護者との連携は行っているが、その他の保護者との連携が不十分である。PTA活動もほぼ無く大きな課題と認識している。新型コロナウイルスの状況も見ながら、PTAとの連携を実施したい。</p>			

基準6 教育環境		評価	前回
【6-31】	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.3	2.4
【6-32】	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.2	2.9
【6-33】	防災に対する体制は整備されているか	3.1	3.0
<p>校舎の老朽化や設備更新が大きな課題である。寒い、暑い、臭いなどの指摘が多く、是非にも改善しなくてはならないと考えている。次年度以降の中長期での計画の中で改善したい。</p> <p>学外実習やインターンシップなどは、全学科のカリキュラムに含め実施しているが、更に強化する。専門職学生による出前授業の開催や学習成果を地域社会へ発信する学内セミナーなど積極的に実施する。</p>			

基準7 学生の募集と受け入れ		評価	前回
【7-34】	学生募集活動は、適正に行われているか	3.1	3.4
【7-35】	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.0	3.2
【7-36】	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.5	3.3
【7-37】	学納金は妥当なものとなっているか	3.1	3.3
<p>学生募集は、教育成果＝学生の活躍としたい。入学選考は、今回の指摘にもあるようにほぼボーダーフリー状況にある。専門学校として”手に職をつける”ことの実現が非常に重要であるが、より高みを目指して本校の価値向上に向け活動する。学納金は、学校 DX の推進の中で低減を目指していく。</p>			

基準8 財務		評価	前回
【8-38】	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.1	3.2
【8-39】	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0	3.3
【8-40】	財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	3.6
【8-41】	財務情報公開の体制整備はできているか	3.5	3.5
<p>本校は適切に財務処理が行われており、職業実践専門課程の認定を受けていることから財務情報を公開している。また財務基盤の安定のためには、学生数の確保が重要になっている。評議委員等に教職員が入っており、また会議の場でも財務については説明をしている。学校のホームページに公開している。</p>			

基準9 法令等の遵守		評価	前回
【9-42】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	3.5
【9-43】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.9	3.1
【9-44】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.0	3.3
【9-45】	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.1	3.4
<p>北海道学事課と必要な都度確認し指導を受ける手順としている。情報管理に関しては不十分な点もあり、まずは、学校データの整理&管理の見直しを開始する。自己評価の公表や学校関係者評価の公表は、ホームページで行っている。</p> <p>今回の自己評価結果も含め、事業計画の中で計画し改善して行く。</p>			

基準 10 社会貢献		評価	前回
【10-46】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.3	3.8
【10-47】	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.5	3.6
<p>社会貢献は、学生および学校にとって最大の活躍の場と認識している。ボランティア活動に加え出前授業や学内セミナーに留まらず、学校施設も地域社会へ広く開放し、学校を地域の人と人、企業と企業をつなぐハブとなるよう活動して行く。</p>			

以 上